

第 25 回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会 開催案内 第 3 報のご案内

会長挨拶

第 25 回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会

会長 国立感染症研究所 安全管理研究センター 第 1 室長

河合 康洋

この度、第 25 回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会を令和 8 年 11 月 26 日(木)・27 日(金)の 2 日間にわたり全国障害者総合福祉センター戸山サンライズ(〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1)において開催させていただくこととなりました。

本学会は、病原体や遺伝子組換え体等の取り扱いにおける安全管理運営、安全装置及び実験施設設計等のバイオセーフティに関する学術研究の推進並びにバイオセーフティの普及を図り、バイオセーフティの向上発展に寄与することを目的として、平成 14 年 1 月 19 日に倉田毅 代表世話人(当時)のもと日本バイオセーフティ学会設立総会が開催され、以来 24 回にわたり毎年総会・学術集会を行ってまいりました。

皆様ご存じのとおり、本学会は、微生物及び動物実験を行う研究者、病原体等の取り扱い安全管理者、安全装置技術者、施設設備設計者、機器設備保守者、消毒作業員、病院・実験動物施設・微生物関連製造施設等の安全管理者、医師、獣医師、臨床検査技師及び保健行政関係者等で構成され、バイオセーフティに関わる問題に関心のある方々の集まりとして、感染症の研究・管理に関する学術的な議論、関連技術開発に関する事項、安全管理などについて、多角的な面から意見交換がなされてきております。

本学会総会・学術集会では、この学会の特徴である多くのステークホルダーがともに重要テーマを議論することにより、新知見が生まれ、最適な学びや意見交換の場としての環境が提供できるように運営を心がけてまいります。今回のテーマは『バイオリスク管理:リスクコミュニケーションについて考える(安全の文化を育てる)』と致しました。バイオセーフティ並びにバイオリスク管理に関する近年の知を結集して、感染性物質を取扱う機関でのリスクコミュニケーションには何が必要かについて議論を戦わせ、研究・検査・医療・技術開発に活かしていこうとする、フランクで活気ある会合にしたいと考えています。

学術集会の構成としては、教育講演、国際動向報告、シンポジウム、企業プレゼンテーション、ランチョンセミナー、一般演題などを予定しています。また、企業展示も執り行いたいと思います。今回取り扱う学術テーマとして、1 バイオリスク管理:リスクコミュニケーションについて、2 バイオリスク管理の国際動向、3 先端生命科学のバイオリスク管理などを盛り込みた

いと考えております。また、これまで継続的に議論してきた課題についても、積極的に取り入れ、意義ある会合にしたいと考えております。本学会総会・学術集会は、遠隔地からの参加者を考慮し、昨年度まで取り入れていたオンラインでの参加形態も継続したいと考えています。わが国のバイオセーフティの発展と国際的な活動に重要な示唆を与え、活発な議論並びに有用な情報発信の機会となることを祈念いたします。多くの方々のご参加をお待ちしております。

学術集会のプログラム（2026年10月19日 時点）

予定講演	講演内容・演者
------	---------

会長講演	バイオリスク管理：リスクコミュニケーションについて考える 河合康洋（JIHS NIID）
------	---

教育講演	バイオセーフティのためのリスク学入門 岸本充生（大阪大学）
------	----------------------------------

病原体へのアクセス及び利益配分システム（仮題）

鈴木睦昭（情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所）

教育講演・パネルディスカッション

知ってて良かったリスク評価（JBSA 学術企画）

（1）話題提供 **令和8年4月施行 感染症法施行規則改正の概要**

大塚和子・岡本徳子（厚生労働省感染症対策課）

（2）教育講演 リスク評価の考え方について知る（JBSA 学術企画）

1. 概 説：リスク評価に関する考え方

四ノ宮成祥（JIHS NIID）

2. WHO LBM 第4版の要点を概説

黒崎陽平（長崎大学）

3. 病原体取扱いにおけるリスク評価の実践

—「4つの視点」から考えるリスク管理—

三浦詩織（新潟大学）

（3）パネルディスカッション

初級者・中級者・指導者向けリスク評価講習コース

モデレーター： 河合康洋（JIHS NIID）・中嶋建介（長崎大学）

パネリスト： 四ノ宮成祥（JIHS NIID）・黒崎陽平（長崎大学）

三浦詩織（新潟大学）・井上智（農工大学）

シンポジウム1 バイオテロとリスクコミュニケーション

Nexus Series AI × Bio Workshop 2 参加報告

北山明子（JIHS NIID）

市民は本当に「パニック」を起こすのか

— 生物剤テロにおける機関間連携と市民とのリスクコミュニケーションの再設計 —

加藤美生（JIHS NIID）

シンポジウム2 感染症のトピック

新規病原体の疫学調査

前田健（JIHS NIID）

パンデミック・プリペアードネスと高度封じ込めの未来

～ワンヘルス（One Health）視点で捉える新興感染症と BSL-4 施設の役割～

奥村敦（長崎大学）

一般演題

口頭： 三浦詩織（新潟大学）

三木祥治（JIHS NIID）

江田諒太郎（JIHS NIID）

小野恵一（日立産機システム）

花岡 希（JIHS NIID）

伊木繁雄（JIHS NIID）

ポスター： 川上雅弘（京都産業大学）

ランチョンセミナー

アース環境サービス株式会社

水戸工業株式会社

企業展示（※プレゼンテーション）

スリーエムジャパン（株） ※
ハムリー（株） ※
イカリステリファーム（株） ※
OSG コーポレーション（株） ※
水戸工業（株）

※詳細についてはホームページの特設サイト（<https://jbsa-gakkai.jp/meeting/annual25-2026/>）をご確認ください。プログラムは必要に応じて更新されます。適時に最新のものをご確認ください。

